

第二十九回 鞆の浦 新春能楽祭

令和六年一月三日(水)十二時始

沼名前神社能舞台 福山市鞆町

奉納番組

素謡

翁

翁

大島輝久

千歳 大島伊織

男性組

地謡

仕舞

羽衣

大島衣恵

男性組

仕舞

高砂

大島輝久

女性組

仕舞

八島

大島伊織

女性組

＊鑑賞無料です。

お誘い合わせてご覧下さい。

主催 福山喜多会

お問い合わせ

喜多流大島能楽堂

福山市光南町2-2-2

☎ 084-923-2633

www.noh-oshima.com

沼名前神社能舞台

(国の重要文化財)

豊臣秀吉が移動式能舞台として造った舞台です。

福山城築城時、徳川二代将軍・徳川秀忠より福山初代藩主・水野勝成が伏見櫓等と共に譲り受け、福山城内外にて演能に使用しました。三代目水野勝貞の時に沼名前神社に寄進され、固定舞台となり現在に至っています。

喜多流の流祖喜多七太夫は七才で豊臣秀吉の前で能を舞い、七太夫の名を拝領し、徳川二代将軍・徳川秀忠により喜多流は一流の樹立を許されました。

徳川幕府は能楽を式楽と定め、幕府や全国の各藩内での重要な儀式には能楽を催しました。そして、能楽は武士のみならず、庶民の間にも普及していきました。

福山喜多会・大島家では平成七年、大島壽太郎作の能「鞆浦」を約八十年ぶりに再演、石碑を再建しました。その後、毎年一月三日、能舞台での奉納を続け、本年で二九回目となります。

【式楽Ⅱ儀式用に用いられる芸能】